

# 都庁に働く皆様 都民の皆様

3月は卒業式の季節。子どもたちの成長を祝福し、互いに出会いに感謝し合いたい卒業式に、「日の丸・君が代」の強制とそのため教職員処分を東京都教育委員会（以下、「都教委」と言う）が始めて、今年で5年になります。

これまでに「君が代」斉唱時に起立・伴奏の職務命令を拒んで、延べ388名の教職員が処分を受けました。

昨年の不起立で、根津公子さん（南大沢学園養護学校）は停職6ヶ月を、河原井順子さん（八王子東養護学校）は停職3ヶ月を受けました。2人は今回も不起立を決意しており、根津さんには免職（解雇）が予想されます。

## ■反対の声は握りつぶす都教委。これが都民に「開かれた」都庁？

私たちは都教委に対して「根津さんを解雇するな」と要請し、また質問をしてきましたが、都教委は、大勢の警備員と都教委職員を動員して人間バリエードを築き、私たちの要請を聞こうとしないばかりか、教育長宛、人事部長宛の要請書や質問書に対しても握りつぶし、宛名人には届けていません。

「苦情等の取扱いに関する要綱」には「担当課所は苦情等の受付に当たっては、苦情・要請者に誠実に対応し、懇切に事情を聴取するものとする」と、また、「東京都教育委員会広報事務取扱要綱」には「投書等…、重要なものについては、教育長に、それ以外のものについては総務部長に、報告するとともに、…主管部長に報告する」とあるにもかかわらず。

都教委27階及び30階での、反対の声を封じる独裁・都教委の理のない「対応」をご覧いただければ、都教委の教育への介入・政治利用が一目でわかります。

## ■「君が代」処分は自由と民主主義の問題です

「君が代」処分は教職員だけの、そしてまた、卒業式・入学式だけの問題ではありません。考えの定まらない小学校入学時から子どもたちに「日の丸」に礼をさせ、「君が代」を起立し斉唱させたなら、子どもたちはそれを自然と受け入れるようになります。考えずに指示命令に従う子どもをつくることに、教員処分の狙いがあります。教職員は今、日常的に教育行政から監視され、もの言えば弾圧を受けています。「君が代」だけでなく、日常的な従順さを狙ってのことです。このようにして、学校を、戦前戦中の学校のように、「一億一心」「お国のために命を捧げる」、教育に名を借りたマインドコントロールをしようとしています。

戦後、民主主義は学校から始まりましたが、その前の戦争も学校から始まりました。今また、学校から人権や民主主義の剥奪が始まったということです。「君が代」の教員処分は、私たち一人ひとりの問題です。

## ■新銀行東京の経営と学校運営は瓜二つ

新銀行東京の経営をめぐる、石原都知事の方針に意見した人たちは辞任していきました。職員会議での採決を禁止し、あるいは職員会議自体をなくし、都教委の指令一つで動かされる学校運営と同じです。論議のない組織が腐敗するのは、言を要するまでもないことです。

皆さん、新銀行東京とともに石原教育行政を終息に持って行きましょう。  
東京の教育破壊をやめさせましょう。

どうぞ、声をあげてください。



08. 3. 17

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会

国立市北1-1-6 コーポ翠1階 多摩島しょ教職員組合気付

# 「日の丸反対」トレーナーで解雇の危機

根津さん 「説明なく、納得できない」

トレーナーに書かれた文字をめくり、懲戒免職の危機に立たされている教諭がいる。都立南大沢学園養護学校の根津公子教諭だ。日の丸・君が代に異論を唱えるトレーナーを校内で着用していたところ、都教委の事情聴取を受けたという。根津さんは国歌斉唱時の不起立で過去9回の懲戒処分を受けており、前回の処分は停職6月だった。これより重い停職処分はなく、次は懲戒免職になる見通しだ。衣類の着用が職務命令違反や職務専念

義務に当たるのか。一教員の「クビ」がかかる中、都教委の判断が注目される。「処分を出す前に説明する義務があるだろう！」「クビがかかってくるぞぞ！」「教育長を出せ！」。そんな怒声が14日、都庁第二本庁舎30階のエレベーター前に響き渡った。根津さんの処分を阻止しようとする支援者らが、詳しい説明を求めて教育長に直談判しようと呼び、警備にあたっては職員と衝突していたのだ。

根津さんと支援者らは連日、同様の要請行動を行っている。「次は免職となる。説明もなのまま免職では、たまったものではない」。渦中の根津さんは語気を強めた。根津さんは、07年の卒業式での不起立で「停職6月」の処分を受け、10月に職場復帰。その際に「OBJECTION HINOMARU KIMIGAYO」と書かれたトレーナーを着用していた。友人が作ったもので、全国で同じ思いを持つ教員らが着いているという。これまで8年間着ているが、注意を受けたことはなかった。

根津さんによると、服を見た校長らが「トレーナーを脱いで下さい」と注意。それは職務命令かと尋ねると、それについては答えず、「学習指導要領に異を唱えるものは、学校現場にふさわしくない」と伝えたといい。説明に納得できず、その後も着用していた根津さんは10回程度、同様の注意を受けた。

「それから数日後、「職務命令違反です。職務専念義務違反です」として、都教委に報告する旨を告げられたという。根津さんが「職務命令を受けた覚えがない」と抗議し、文章で出すよう求めたが、「答えません」と回答。再度、「職務命令ではないでしょうか？」と確かめると、「職務専念義務違反です」と言い直したため、根津さんは職務命令違反ではないと認識した。しかし、今月1日に行われた都教委の事情聴取では「職務命令違反です。職務専念義務違反ではない」との考えを述べ、文章等で示す必要性はないとの考えを示す。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

根津さんは「少なくとも、校長の報告と本人の認識が違う中、双方の主張を聞いて隔たりを埋めることが必要ではないか。処分するにしても公平性を確保するのは必要最低限のことだ」と訴えている。

他方、教育庁職員課は取材に対し、一連の流れについては「個人情報に当たるので答えられない」と回答。その上で、何が職務命令に当たるかについては、「上司が部下に対し、業務上で命令すれば、職務命令にあたる」と述べ、文章等で示す必要性はないとの考えを示す。

「このまま処分を進められたら納得いかない。おかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

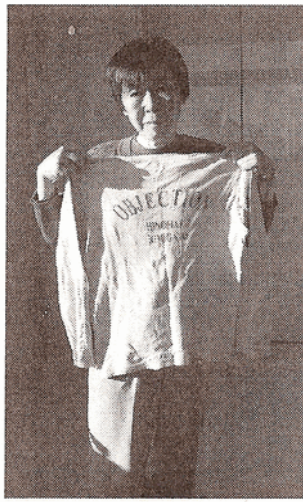
また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。

また、南大沢学園養護学校の尾崎祐三校長は、取材に対し「根津さんのおかしい。そう危機感を抱いた根津さんは、都教委に公開質問状を提出した。職務命令がいつ出されたかの確認などを求めたところ、「質問のすべてについて、回答することはできない」との返答があったという。



問題となったトレーナーと根津さん

処分は15日現在、出されていない。根津さんは「教育長の意向に沿わない人は、門前払いにする対応だ。意見の違いはあっても、少なくとも都民や職員の声を聞く、誠実に対応するのは当たり前」と抗議している。

## 不起立教師を また処分なの

主婦 吉田 和古

(東京都世田谷区 45歳)  
2月末に都内で開かれた、根津公子さんの模擬授業を体験する催しに参加した。根津さんは東京都内の公立中学の家庭科教師で、君が代・日の丸の不起立問題で何度も厳しい処分を受けてきた人だ。

「自己主張の強い過激な人なのでは」と思いつつ会場に向かった。しかし、それは完全な偏見だった。根津さんは30年を超すキャリアの中で、一貫して

「考える授業」を模索し実践してきた。君が代・日の丸問題でも、上から命令が下りたからと言って起立できないと判断したという。

この日の合成洗剤について考える模擬授業や翻訳家の池田香代子さんとの対談では、終始穏やかに語っておられた。その顔は「子どもたちをより良く育てたい」と、それだけを望んでいる誠実な一教師だった。

根津さんの勤務校の卒業式が3月24日に迫っており、今度も「起立しません」と根津さんは決意している。再び不起立を通過せば都教委が「クビ」を言い渡すのではないかと心配だ。私たちは、子どもに対して誠実であろうとする教師が、学校から排除される事態を傍観するしかないのだろうか。